

世界景気と市場について

昨日4日、ECB（欧州中央銀行）のトリシェ総裁は会見で、ユーロ圏の景気下振れリスクが強まっているとの見解を示しました。また、米国では、週間失業保険申請件数や民間雇用サービス会社の集計調査で、雇用環境の厳しさが示唆されました。そして、ユーロ圏では、ユーロが対米ドルで年初来の安値を更新、米国では、株式市場が大きく下落するなど、世界的に金融・資本市場の動揺が見られました。こうした背景には、景気鈍化懸念の高まりがあるとみられることから、今回は、弊社の世界経済見通しなどについてご説明します。

主要指標の9月4日の動き

主要株価指数	9月4日終値	前日比
日経平均株価	12,557.66	-1.0%
TOPIX(東証株価指数)	1,201.65	-1.5%
英国 FT100指数	5,362.10	-2.5%
ダウ 欧州株価指数	278.18	-2.6%
ドイツ DAX指数	6,279.57	-2.9%
フランス CAC40指数	4,304.01	-3.2%
NYダウ工業株30種平均	11,188.23	-3.0%
S&P500種株価指数	1,236.83	-3.0%
ナスダック総合指数	2,259.04	-3.2%
MSCI-KOKUSAIインデックス		-2.9%
MSCIエマージング・マーケット・インデックス		-2.0%

主要通貨(ニューヨーク外国為替相場)	9月4日終値	前日比
円/米ドル	107.08円	1.21円・円高
円/ユーロ	153.40円	3.61円・円高
円/豪ドル	88.10円	2.43円・円高

(信頼できると判断したデータを基に日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

足元では、個人消費の減速が特に先進国地域で目立っています。さらに今後、新興国地域でも個人消費の伸びがやや鈍ると見込まれ、企業の設備投資の鈍化に加えて、個人消費の減速も世界景気に下押し圧力を及ぼすものとみられます。こうしたことから、弊社では、年内の景気が、世界的に減速し続けると想定しています。

ただし、政策金利から消費者物価上昇率を差し引いた実質政策金利が世界的にマイナスとなっており、各国の中央銀行が依然としてかなり金融緩和的な姿勢をとっていることは、明るい材料と言えるでしょう。こうしたことを背景に、弊社では、日米欧のいずれも、今年後半に景気後退に陥ることは無いと考えています。なお、先進国、新興国の両地域とも、政策金利は既にピークを打ったとみられ、年内は現在の水準近辺で推移すると想定しています。そして、2009年は、先進国地域での早期の景気回復こそ見込み難いものの、日米欧とも景気後退を回避し、一方、新興国地域では高水準の成長が続くとみられます。

- 当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

物価について、弊社では、この7-9月期をピークに伸びが鈍化するとみています。マイナスの実質政策金利に加え、高成長が続く新興国からの商品需要の強さ、さらに、“世界の工場”である中国の輸出品価格の上昇の影響などから、物価の伸びが大幅に鈍化すると見込むのは難しい状況です。それでも、物価上昇率が鈍化することにより、年末にかけて実質政策金利は若干上昇し、金融緩和の程度は幾分弱まるとみられます。同様に、年末にかけて先進国地域の長期金利は若干上昇すると見込まれるものの、世界全体の長期金利は現状近辺で推移すると予想しています。

為替に関しては、ユーロの軟調ぶりに違和感を覚えます。なぜならば、ユーロ圏の景気も確かに鈍化しているものの、米国よりも堅調であり、金利水準も米国を大きく上回っているからです。また、金融セクターの健全性や貿易収支の面でも勝っています。円は、予想以上に安定的な推移を見せており、今後、緩やかな上昇が見込まれます。

弊社では、2009年初めにかけて世界の景気が冴えないと予想していますが、そうした経済状況だけでなく、米国のサブプライムローン問題とそれに端を発する金融セクターでの問題の拡がりについても、市場での織り込みがかなり進んだとみられます。ただし、足元では、マクロ経済環境の悪化を受け、個別企業の収益予想が下方修正され始めており、それを反映する形で株価の調整が見られていると考えられます。こうしたことなどから、株式市場については、年末にかけて緩やかに下落する可能性があるかとみています。

相場の天井や底を見分けるといった、“投資のタイミング”は誰にとっても非常に難しいものです。ただし、例えどんなに困難な環境にあっても、ほとんどの人がそれを認識するに至った段階では、新たな投資を検討するのに悪くないタイミングであるというのが、これまでの経験から得た私の見解です。そして、もちろん、分散されたポートフォリオでの長期投資は、投資手法として妥当なものであると考えています。

以上

日興アセットマネジメント株式会社
インベストメントストラテジーグループ

ジョン・ヴェイル

John F. Vail

nikko am
fund academy

日興AM
ファンドアカデミー
とは？

投資信託を「つくる」会社、日興アセットマネジメントが
2008年にスタートした、投資教育のプラットフォーム。

「すべての投資信託に共通する大切なこと」をテーマに、
より深い理解と納得のもと購入していただくための活動を展開しています。

- 当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。